

3つの「R」で ふるさとを未来へつなぐ

～きれいなまち もりおかの資源とごみの現状～

3つのRとは、リデュース（ごみを減らす）・リユース（使えるものは繰り返し使う）・リサイクル（資源を再利用する）の3つのRの総称。

家事や仕事などで忙しい毎日――。ついプラスチック製容器包装や雑みなどの「資源」を「可燃ごみ」として出してしまうことはありませんか。これら「資源」は「ごみ」ではありません。「資源」を分別することにより、さまざまな形で再利用ができる上、ごみの減量にもつながります。誰にとっても深く関わりのある「ごみ」についてお知らせします。

【問】資源循環推進課 ☎626-3733
【広報ID】1010064

1 市の「資源」と「ごみ」 今とこれから

Q 盛岡市の、家庭から出されるごみの量は、1人1日あたりでどのくらいあるでしょう？

①卵3個分（約180g）



③卵8個分（約480g）

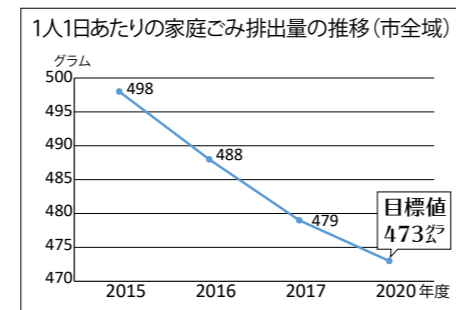


②卵5個分（約300g）



資源を除いた、ごみの量で考えてみてね。答えは右の説明文にあるよ！

平成29年度の、本市の家庭ごみ（資源を除く）の量は、1人1日あたりで479g。Lサイズの卵で8個分の量が、ごみとして毎日出されている計算です。環境省の調査（平成28年度）で全国の状況を見ると、本市のご



みの量は全国の20万人以上の市（48市）の中で16位、最も少ない市より100gも多い結果となっています。

平成26年度以降、市がプラスチック製容器包装を毎週収集するようになったことで資源の分別が進み、ごみの排出量は減少傾向にあります。今年の4月は家庭ごみの排出量が増加。継続して減量に取り組む必要があります。

3年後には、1人473gまで減量するのが目標です



ごみ減量キャラクター めぐるちゃん

《表の見方》

(1) 家庭ごみ排出量 ※地区ごとに1人1日当りに換算。昨年6月～今年3月の実績	A: 473g以下（目標値） B: 473g超過～498g以下 C: 498g超過～523g以下 D: 523g超過
(2) 可燃ごみに含まれていた資源の割合 ※29年度調査結果	A: 21%以下（目標値） B: 21%超過～26%以下 C: 26%超過
(3) おおむね分別ができているごみ袋の割合 ※29年度調査結果	A: 50%以上（目標値） B: 50%未満～25%以上 C: 25%未満

盛岡市平均	①仁王地区	②桜城地区	③上田地区	④緑が丘地区	⑤松園地区
(1) 496.4g B	(1) 537.7g D	(1) 500.8g C	(1) 461.3g A	(1) 477.4g B	(1) 541.5g D
(2) 26.0% B	(2) 25.9% B	(2) 23.2% B	(2) 37.3% C	(2) 24.1% B	(2) 23.6% B
(3) 35.3% B	(3) 53.5% A	(3) 40.0% B	(3) 24.0% C	(3) 38.0% B	(3) 31.0% B

3 始めよう、地域で・家庭で「3R生活！」

地区ごとの結果を受け、リデュース（ごみを減らす）・リユース（使えるものは繰り返し使う）・リサイクル（資源を再利用する）の3R生活で、ごみの分別と減量に取り組んでみませんか。

REDUCE 減らす

食べてから 注ぎに歩こう 懇親会

①飲食を伴う会議や宴会では開始後30分と解散前10分は座って料理を食べ、食べ残しをしないよう呼びかけましょう。

乾かせば かさも減って 快適ごみ出し

②清掃活動などで集めた雑草や落ち葉などは、乾燥させることで量・重さも減り、持ち運びも楽に。

生ゴミは ギュッと絞って 悪臭軽減

③可燃ごみの大半が生ゴミの「水分」。これを減らすと、臭いもごみの量も抑えられます。

REUSE 繰り返し使う

断捨離は 捨てるのではなく 譲ること

④着なくなった洋服や子どものおもちゃも、捨てればただの「ごみ」にしかありません。

RECYCLE 資源を再利用する

このボール 資源回収で そろえたよ

①資源集団回収で得た収入は、子ども会や地域活動に生かされます。

上質な 資源になるよ 牛乳パック

②牛乳パックがら枚あれば、トイレットペーパー1個に生まれ変わります。

プラと紙 ゴミに混ぜずに 資源へGO!

③ごみと資源を分別すると、こんなに差が出るんです。



各地区では、こんな取り組みも…

- ・ごみの出し方に関するご意見は、町内会回覧だに見てもらえないので、あえて全戸配布のチラシにしている。
- ・ごみ集積所での立ち会い指導を頻繁にしたら、通りすがりのごみ出しが減った。
- ・町内の夏祭りでも、分別の説明会を開催。若い世代にも参加してもらえて良い。
- ・きれいなまち推進懇談会で、中学生が資源の分別について研究結果を発表。生徒からの指摘は大人に効果があった。【写真①】
- ・町内の全てのごみ集積場所を、ネット式から、すっきりと折りたためるボックス式に。ごみ出しルールを守る人が増えた。【写真②】



3Rマイスターへの道

特別編

Q. ごみを減らす理由を教えてください！

A. ごみの減量に取り組む理由は大きく分けて3つあります。

- ①天然資源に限りがあり、環境に負荷がかかっている
- ②ごみ処理には膨大な経費がかかっている
- ③ごみの最終処分場（埋め立て地）に限りがある

【解説】

①白色トレイやプラスチック製容器包装は、石油などの天然資源から作られています。しかし、天然資源は無限ではなく、将来、これらの資源が不足することが考えられます。

②市がごみを処理するのに、年間約43億円かかっており、市民1人あたりでは年間1万4372円を負担している計算になります。



③可燃ごみを焼却した灰や細かく砕いた不燃ごみなどは市の最終処分場に埋められます。この処分場は、昭和52年に約8億円かけて作られ、さらに約30億円をかけて再整備されましたが、数年後にはいっぱいになる見込みです。そうすると、新たな処分場を建設しなければなりません。できるだけ長く現在の処分場を使い続けられるよう、ごみを減らす取り組みが必要です。



写真は市のリサイクルセンター（川又字大日向）

盛岡広域圏で ごみ処理を進めます

盛岡広域8市町では、効率的で環境に優しいごみ処理方法の確立を目指し、ごみ焼却施設を1つの施設に集約し、広域圏の可燃ごみを平成41年度から共同で処理す

るための協議を進めています。循環型社会の形成のため、今後3Rの推進やごみ減量・資源化の施策に、8市町が一体となって取り組んでいきます。



【問】ごみ処理広域化推進室 ☎613-8146
【広報ID】1020646